

たすけ愛信太だより

-す み よ い 地 域 を め ざ し て-

発行:たすけ愛信太
<世話人>
藪下 純男 (田 原)
井本 正和 (嵯峨谷)

2021年11月 第4号

【移動販売 現地視察】

「たすけ愛信太」の会員で日の丸観光株が実施している移動販売を視察しました。
○ 8/25 (水) 紀美野町～新城地区



○ 8/27 (金) 高野口地区 高齢者住宅～九度山町
(梅林地区・河根地区)



滞在時間は15分～20分程度、販売車の駐車する場所は広場や家の庭先であるが、地区によっては一軒一軒を訪問するところもある。商品の種類は1,000アイテム程度。(生もの・お惣菜・生活用品等) 今後は「何か変わらない？」などの声かけや安否確認等、見守り活動もしていきたいとのことである。
(移動販売について関心のある方は、区長または世話人にご連絡ください。)

【第3回たすけ愛信太会議で出された意見】 (9/17 金)



1 移動販売について

- ・少人数でも、一人でも家の前まで来て対応していただけるのでありがたい。また商品も豊富で、冷蔵庫まで装備されており刺身までありました。
- ・移動販売車には多くの種類の商品が載っていて驚きました。既に売り切れた商品を求める人が結構いたように感じました。売れ筋の商品の量については工夫が必要かと思いました。
- ・移動販売は、もう既に安否確認も兼ねていると感じました。
- ・陳列されているたくさんの商品を見た時の購入者の笑顔がすごく良かった。
- ・今は必要でないかもしれないが、近い将来は来て欲しいかも。

2 可能な助け合い・悩んでいること・取り組んでいること

- ・「台風くるから、どう？困ってない？」とか、チョットその気になれば、一歩踏み出せば隣近所で声かけはできると思う。
- ・一人暮らしの人でも時々子どもたちが来てくれている。まだ、他人の世話にはなりたくないと思っている人もいるようだ。
- ・私たちの地区では以前よりつながりが希薄になっている。(コロナで区の行事がなくなったせいもある) 集落の人の交流の場が少なくなっていることが気になる。
- ・田原区では毎週木曜日に「いきいき100才体操」をおこない、健康増進に取り組んでいる。

【研修会の報告】

9月1日・2日と横浜市で「いきがい・助け合いサミット in 神奈川」が開催されました。コロナ渦ということもあり、会員や世話人はオンラインで研修しました。下記は出された意見の中で、心に残った考えさせられる内容や言葉を簡単にまとめました。

(※文中の「第2層協議体」は信太地域では「たすけ愛信太」という愛称です。)

【全体会シンポジウム】



◎ 自己の存在が、他者にとって必要不可欠な存在だと実感できたときに、人間は幸福や生きがいを実感する。

65才以降は、地域での生きがい就労・社会参加を通して地域の人々を支えることで自分も元気になる。今度は自分が弱っても、地域の中でその人らしく生き切ることに、自分を支える人々の心を元気にするような生き方ができる。

◎ ー地域共生社会とはー 誰もが必要な時に支えてもらえることができる。誰もが自分のできることで誰かを支えることができる社会。それが地域共生社会だ。

【分科会】

〈第5分科会 ー第2層協議体の

役割ー〉

◎ 地域の課題を、行政や社会福



祉協議会ではなく、住民自らが創出した取り組みで解決していくことに「楽しみ」がある。



〈第20分科会 ー障がい者が地域の人々と共に生きる地域をどうつくるかー〉

◎ 制度が整っていれば障害があっても地域で生きることが出来ます。私は子育てを通して、保護者として地域と繋がる方法を持っています。子育ては障害があってもなくてもたくさん助けがないとできません。

◎ 心身機能の低下があつたとしても、何らかの支援が必要な状態になつても、その持てる能力を生かして地域社会に参加することで、逆に誰かの担い手になることができる。



〈第33分科会 ー人口が少ない自治体における助け合いによる生活支援ー〉

◎ 私たちの地域では、困りごとが明確になってきた。それは「交通手段の確保」、「地域の様々な担

い手不足・集落運営などの地域力の低下」、「高齢者・要援護者の支え合い」などである。これらの解決のため、第2層協議体は単なる支え合いの仕組みでなく、まちづくりにより不可欠なものと考えている。

◎ 会議は腕組み、眉間にシワが寄つてしまうような場にはしない。

「真剣」だけど「深刻」ではない話し合いの場にする。会議にはスクールソーシャルワーカー、僧侶、神職など、多様な場の人も入っている。

◎ 地域懇談会で住民からの声を集めた結果、「居場所」の創設を求められた。そして地域共生場所「つなぐ」を立ち上げ、住民が地域で助け合う意識、共生社会に向けた拠点づくりの取り組みを進めました。

ここでは、行政、社会福祉協議会のスタッフを常駐させ、相談機能やニーズキャッチの場としての機能を設けました。そこでは介護予防の運動教室、認知症カフェなど様々なプログラムを盛り込みました。

